**令和元年度三重県精神保健福祉士協会総会・記念講演　報告**

令和元年6月2日、三重県立こころの医療センターにおいて、令和元年度三重県精神保健福祉士協会総会・記念講演が開催されました。今回、県内から多数のご参加を頂き、誠にありがとうございました。

記念講演につきましては、例年講師の先生をお招きして、研鑽に務めてまいりましたが、今年度は、「みんなで創る みんなの三重Ｐ」をテーマに、グループワークを通して、会員が自ら「今後の三重Ｐ」の取り組みについて考え、意見交換を行う機会を設けさせて頂くこととなりました。

冒頭挨拶では、下方会長より、現在の三重Pの取り組みについてお話を頂き、創設当初の苦労話や、これからの方向性などについてご挨拶を頂きました。

グループワークでは、参加人数67名の出席を頂き、7Ｇに分かれ、会員から選出されたファシリテーターの進行のもと、① 人材育成、 ② 組織体制、 ③ 広報、 ④ その他についてディスカッションが行われました。また、若手の活躍の場を設ける機会として、20代実務経験5年未満の「若手グループ」もモデルケースとして参加して頂きました。

話し合われた①～④のテーマは、偏りが少なかった印象で、

・地区ブロック活動を充実し、地域のまとまりを強めたい。

・「協会に入ってよかったな」、と思えるような協会をつくりたい。

・「今さら聞きにくいこと」を相談できる場にしたい。

・若手がPSWを続けられるよう、サポートできるような組織にしたい。

・グループワークを通じて顔の見えるつながりになったと思う。

・協会がどういうことをしているのか分からない。

など様々な意見交換が行われました。

一方、グループワークのアンケート結果では、「いろんな世代の人と話せてよかった」、「顔の見える関係づくりになった」、「とても刺激になった」など前向きな意見が多く、「グループワークは抵抗感があったが、参加してみたらよかった」という意見もみられました。

今回の取り組みは、改めて「今後の三重Ｐ」を考えることで、精神保健福祉の向上に資する有意義な機会となりました。

また、定期総会においては、正会員100名中、出席者39名、委任状47名、併せて86名の出席により総会は成立し、第一号議案から第4号議案までの承認を頂きました。特記すべき点は、三重県精神保健福祉士協会規約における資格に関する見直しや、休会に関する規程、メーリングリストの開設などが盛り込まれた点でした。

今回、皆様のご支援のおかげで、素晴らしい定期総会・記念講演が開催できましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

（松阪・伊勢ブロック役員　松阪厚生病院　辻陽平）